

## ■DOSANKO－PROJECT 事業企画主旨

代表取締役 松浦義昭

北の大地に生まれ四半世紀を過ごした自分にとって、何時の日にか北海道に戻って来たい気持ちを抱きつつ、38年の長きに渡り、首都圏で半導体事業に従事してきました。たまたま時計用半導体という時代を先取りしたテーマに従事できたため、現在電子機器の主流になった携帯機器の全てに応用される半導体製品と、その技術の創生期から従事することが出来ました。その間数多くの仲間にも恵まれて、15年前から開発センターを札幌市に設立し、現在7名がアナログ半導体の開発に従事しております。

D－PROJECTはアナセムとして9年間推進した開発の成果の生産段階での事業化を目指したものです。38年前、正に高度成長の真っ只中、何の躊躇いも無く、企業戦士として火の玉になり日夜没頭した毎日でした。全国から若者が首都圏に集まり、効率よく企業の拡大が進みました。思えば日本全体が迷うことなく一つの目標に邁進できた幸せな時代であったような気がします。その後失われた10年を経過して、昨今は再生する日本を目指して官僚支配の中央集権から地方分権へと日本が変革すべき流れになっています。地方が自立することが早急に求められています。

半導体業界も台湾・韓国・中国の飛躍に追いまくられ、アメリカの上蓋に押さえられ身動きが出来なかった失われた10年からようやく日本が行くべき道筋が少し見えてきたようにも思われます。

日本の半導体もかつての世界シェアトップからアメリカ・韓国・台湾に抜かれメジャーな地位を譲らざるを得ない状況です。でも決して物づくり日本の底力は捨てたものではないと確信しています。日本人が江戸時代から培った創造性・緻密性・完璧主義は確固たる遺伝子としてDNAに組み込まれています。我々の未来は台湾・韓国・中国には決して出来ない、アメリカでも勿論出来ない半導体を如何にして創造していくかにかかっています。

明治の初めに北海道に移住した先祖のDNAを目覚めさせて未開の事業開拓にチャレンジしようと思っています。

シェア争いの時代から共生の時代へと半導体業界も変革しなくてはなりません。この思いからあくまでも国内に拘り、日本のインフラを生かして、日本でしか出来ないものを日本で製造する事に執着して今回のD－PROJECTを企画しました。

D－PROJECTは勿論DOSANKO－PROJECTです。北海道に拘ったのは半導体不毛の地であるにもかかわらず、メンバー全員の熱い思いでハンデーを克服することを期待しての事です。これからは郷土が人を作り、人が事業を作る地方自立と世界共生の時代です。親と子が共に生活し、親から子へいろんな思いを伝えつつ発展した郷土を子孫に残していく責任があります。地方から世界を相手にする時代です。世界を相手に、オンリーワンの半導体を供給する夢を実現しようと思っています。

- 1) 北海道の地に世界を相手にした北海道発の半導体事業を根付かせる
- 2) 首都圏の会社の工場という位置づけではなく、あくまでも北海道発の事業を主体的に推進する
- 3) 最終的にはウエファーファブを含む一貫工場を目指す
- 4) 地味でも着実に事業を発展・継続できるオンリーワンの製品群に特化して安定事業を推進する

[ホームへ](#)・[次頁](#)

Ana Sem